

平成 24 年度 第 2 回 櫛引地域審議会 会 議 録



期 日：平成 24 年 8 月 1 日(水) 13:30～

場 所：櫛引公民館多目的ホール

平成 24 年度 第 2 回櫛引地域審議会

○日 時：平成 24 年 8 月 1 日(水) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 47 分まで

○会 場：櫛引公民館多目的ホール

○出席者：敬称略

(委員) 前田勝、上野重和、渡会昇、澤川宏一、佐久間泰子、佐久間忠勝、秋山文雄、
松浦安雄、今野慎太郎、斎藤ゆう子、伊藤信、成田勇、森 薫、齋藤美恵、
清和ふみ子、今野亨

(市側) 櫛引支所長佐藤孝朗、総務企画課長今野勝吉、同課主幹菊地ゆかり、産業課長齋藤功、同課主幹佐藤浩、市民福祉課長本間俊司、総務部南部税務室室長補佐渋谷清、建設部南部建設事務室室長佐藤正明
教育委員会学区再編対策室長鈴木金右エ門、同室主査本間明
企画部地域振興課長補佐武田壮一、同課地域振興専門員三浦裕美、同課主任前田哲佳
総務企画課総務地域振興主査前森淳子、同菅原正一、同課コミュニティ防災専門員眞壁建、同課主任梅津一成、同佐藤文博

【辞令交付】

1、開 会

13:30

2、あいさつ

佐藤孝朗支所長

皆さんこんにちは。櫛引庁舎支所長の佐藤孝朗でございます。

委員の皆様方におかれましては何かとご多忙のところ平成 24 年度第 2 回櫛引地域審議会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

また、日頃より皆様方におかれましては、それぞれのお立場から地域振興にご尽力いただいておりますことに改めて感謝申し上げます次第であります。

この度、地域審議会委員の任期満了によりまして、20 名の方々に委員をご委嘱申し上げます。これからどうぞ、よろしく願いいたします。

さて、今回ご委嘱申し上げた委員のうち、11 名の方が初めて委員に委嘱されておりますので、改めて地域審議会の概要につきまして若干申し上げさせていただきます。

地域審議会につきましては、市町村合併特例法の規定に基づきまして新鶴岡市が処理いたします旧市町村の事務につきまして、市長の諮問に応じて審議を行うため、旧市町村ごとに設置されたものであります。所管事務は、新市建設計画の変更に関する事項、及び執行状況に関する事項、そのほか市長が必要と認める事項となっております。設置期間は、合併後 10 年間ということで平成 27 年 3 月までとなっております。委員は、その区域に住

所を有する 20 名以内といたしまして、公共的な団体等の代表の方、及び学識経験者、そして 22 年度からは公募の方も含めまして市長が任命することとなっており、任期は 2 年間で再任は妨げないということになっております。

尚、22 度からの地域審議会からは、それまで年 1 回市の主要事業の説明を中心といたしました審議会の持ち方を見直しまして、地域庁舎での課題調査と結果等をもとに、委員の皆様から地域の活性化に関するテーマを設定していただきまして、協議を進めていただいたところであります。

櫛引地域審議会にあっては、平成 22 年度は「地域社会で取り組む結婚支援のあり方」をテーマに、また 23 年度については、「地域コミュニティの活性化方策について」を協議テーマにしていただき、昨年 12 月には、提言書として会長さんから直接市長へ提言していただいております。

結果として、「行政の婚活支援の推進」については、市の総合計画実施計画でも市の重要事業として取り上げられており、本年度は、全庁舎においてイベント等を開催することとなっております。また、櫛引地域の地域活性化予算についても、24 年度については 23 年度以上に増額して確保できましたのも、提言によるところが大きいと考えております。

本日の審議会では、次第にございますが会長・副会長の選出の後、報告として、情報の共有を図る観点から、直接当櫛引地域では今のところ対象になっている学校はございませんが、市内の学校適正配置に係る現在の状況について説明をさせていただき、引き続き協議といたしまして、先程申し上げました、今年度の協議テーマの設定と進め方におきましてご検討いただきたいと思いますと考えております。

この審議会を通して、委員の皆様のご意見を十分にお伺いいたしまして、鶴岡市とりわけ櫛引地域における事業の推進にできるだけいかしていきたいと考えておりますので、よろしくご審議のほどをお願い申し上げまして、開会にあたってのごあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしく願いいたします。

3. 委員紹介

—総務企画課長が、各委員を紹介—

4. 会長・副会長の選出

—会長に前田勝委員、副会長に齋藤ゆう子委員を選出—

前田勝会長 挨拶

ただいまは会長に推挙いただきました。まずもって感謝を申し上げたいと思います。私が会長で、婦人会長の齋藤さんが副会長ということでございますけれども、事務局の提案

が、私が区長会の会長をしていること、副会長については、婦人組織の代表であるということ、それ以上でも以下でもない認識をいたしております。それだけに、大変職責について重大さを痛感しているところでもあります。この先は、どうか委員の皆さんから絶大なご支援をいただいてなんとか努めていきたいと思っておりますので、ご協力方よろしくお願ひ申し上げます。

先ほど辞令交付もございましたけれども、このたび11名の気鋭の委員を迎え入れることになりました。皆様のこれからのご活躍をご期待申し上げる次第であります。

地域審議会の定義、役割につきましては、先ほど佐藤支所長のごあいさつの中で説明ございましたので、私のほうからは省略させていただきたいと思ひます。最近ちょっと私を感じているところではありますが、合併して今年の秋で7年目を迎えます。合併については順調に推移をしていると思ひているのですが、何か旧櫛引時代の求心力というか、輝いていた時代の元気がなくなっている感じを持っております。これは、14万という大きな市民の中に吸収されまして、いろいろなことを昔と同じようにやっているわけですが、やはり合併したことによって、この地域での求心力が失われてきているようではない。それは、やはり新市になっていろいろなことをやってきてはいるわけですが、この地域での何かが近年不足していると私は思っているのではありません。それで、先ほど佐藤支所長からもありましたけれども、従来、合併当初は、年1回ペースでこの審議会が開催されていたようですが、平成22年度からは具体的な協議テーマを決めて取り組むということで、各地域審議会がそれぞれテーマを設定し、それについて検討して市長に提言してきたという経緯があります。

その中で、婚活支援につきましては、櫛引で特に協議してきたわけではありますが、先ほど支所長からもお話しあったかと思ひますが、全市的なものになっておりまして、市全体で取り組むことになっております。当初、前の会長さんから聞いたのですが、鶴岡の振興審議会等でも、結婚問題は地域課題としても大変重要だと話をしたら、いや結婚問題というのはそれぞれ個人の問題で、審議会でも取り上げるものではないという話ももらったそうではありますが、しかし、全体として、地域力が少子高齢化の中で失われている中で、婚活問題を個人の問題だけにしておけない時が来たということで、22年度の櫛引地域審議会のテーマにも設定されましたし、このたび市全体に及ぶようになり、事の重大さが市当局からも認識いただいたものと私は思っております。

それからもうひとつ、先ほど支所長からもあったわけですが、コミュニティ関係の問題これがございまして、ご案内の通り、鶴岡市にはコミュニティセンターというものがありまして、30年来の歴史を持つわけでございます。ここ櫛引は、長い間社会教育・公民館活動ということで自治公民館を中心に運営して参っているわけでございますけれども、ここに、他の合併地域と違ういわゆる出発点の違いがありまして、これから今、コミュニティのあり方検討委員会というものを市で設けまして、その検討に入っているわけでござい

ます。その基本方針については、年度内にまとめるということで、私もその委員になって参加させていただいているわけですが、無難に推移しているようではございますが、なにか櫛引の求心力が、かつての櫛引の輝きから見ると求心力が失われてきているというのが私の感じていることでもあります。

これから皆さん方から、平成24年のことについていろいろご審議をいただくわけですが、是非そのことも頭の中に入れていただいて、皆さんから、かつての櫛引の輝きを取り戻すようなご意見をいただければ大変ありがたいと、そしてそういうことをまとめていけたらなと思っていますところであります。

なお、本日までの経過でありますとか、今後の進め方等については、後程事務局のほうから説明していただきますので、よろしくお願いいたしたいと思っております。

重ねて申し上げますが、会長、副会長、微力でありますので皆さんの絶大なるお力添えをお願いして、一言ごあいさつに代えさせていただきます。

5. 報告

(1) 学校適正配置について

—資料に基づき教育委員会学区再編対策室が説明—

佐久間忠勝委員

聞くとところによると、地元でも不満があったり若干抵抗があるみたいなのですが、これは最後まで絶対反対だ、という意見が地元で大きかった場合はどうなるのか。絶対やるという気持ちで進めていくということはわかるわけですが、地元の不満や抵抗というものがその地域によって差があると思うのですが、そういうところきは最後まで丁寧に説明して、なんとかという気持ちではあろうかと思いますが、そういう場合どうなるのか。また、山形県内の取り組み状況は、どんな状況なのか。

それから、28年度までということですが、当面学校の場合は少子化が継続していますので、28年度以降もそういったことが想定されるわけですが、やはり望ましい学校規模から外れた場合は、28年度以降もどんどん増えていくのだよと、先のことはわからないわけですが、今の段階で28年度以降どうなるのか。

鈴木室長

今、計画期間中のごさいますて、地元をお願いする期間といたしましては、来年度25年までの期間を予定しているところのごさいますので、まずはそれまでに地元の合意に向けて委員会として努力するということとなります。結果として、今次計画期間内で統合に至らなかった地域に関しましては、25年度5月の段階で今回対象校が14校ある中で、教育委員会として市全体の状況を総合的に判断して、内部の協議、関係部局との調整を踏まえまして、そこで一定の判断を示さなければならないと考えております。そして学校の

適正配置の検討につきましては、今次の計画は、平成27年度末までの5か年としておりますけれども、今次限りで終わるものでもございませんので、統合に至らなかった小学校区においては、状況が大きく変わらない限り次期計画以降においても再度統合の対象になるものと考えております。今次計画における進め方、あるいは手法につきましては、あくまでも地域合意ということを重要視して進めているところでございますが、次期計画以降につきましては、それらの進め方や手法等の見直しも含め、今次の5か年間の計画の検証と総括をしっかりと行い、それを踏まえた新たな計画を策定していくことになるものと考えております。

県内の状況につきましては、手元に資料ございませんのが、ただ、隣の酒田市さんにおきましては、教育委員会の方針である、たとえば複式学級になった時点ですぐに計画の中に入るという方針で、今、盛んに中学校あるいは小学校の統合を進めているところでございますし、学校数だけを比べますと、県内の最大都市である山形市が、小学校が37校ございます。鶴岡市は現在40校ということからすると、学校の規模がいかに鶴岡市と山形市と比べた場合、小規模校が多いかという状況になっているということでございます。

松浦委員

大まかなことをお伺いいたしますと、これは最大の改革だと思えます。自分の方の学校が減るということには猛反対だというのは、それは時代の流れに沿って、まず一通り考え直す。例えば、自分のほうの学校がなくなる、場所がなくなるということではなくして、そういうことを本気になって、みんなで検討して学校経営をいかにして良いものにするかということが、私は最も大事だと思っております。私の高校もすぐそこでございますけれども、間もなく南高校の付属として残るわけでございますけれども、反対したってどうにもならない時代に入ってきたのです。その辺、みなさん、私も小学校の合併は、いろんなことで違和感はありますけれども、新しい形の時代の流れをきちっとわきまえた上で検討すれば、私はより良い改革ができるのではないかと考えております。一つの提言として申し上げたいと思えます。

今野慎太郎委員

複式学級に間もなくなる櫛引管内の南小、東小もなる可能性が出てくるのではないかと考えておりますが、実際今年小学校に入学した児童が、西小は関係ないと思えますけれども、東小の場合は8名、南小は12名だったと思えますけれども、それから想定しますとここ何年かには複式学級が、ここにも書いていますように、1学級あたり15から20人以上というものからすると、たぶんここ数年でも複式学級が櫛引管内でも発生するのではないかと感じておりますけれども、その算定、予想されている資料があれば教えていただきたいと思えます。

鈴木室長

先ほどの資料の3ページのほうに示させていただいております。櫛引東小、西小、南小

の24年から30年、平成30年は今の0歳児のお子さんが小学校1年生に入る時のそれぞれの学校の人数で、今の段階でわかるのが23年度までに生まれたお子さんはデータ把握できますので、今、最長で平成30年度までにおいては櫛引地域では今の制度における複式学級は発生しないという状況であります。当然、平成24年度以降に生まれるお子さんの数というのはわかりませんので、それが来年度になれば平成31年度までわかるという事情でありますので、現状としては、櫛引東小さんは今年度1年生7名のようにすけれども、来年度はお子さんが18名というふうになってますので、今年度少し少なくなっておりますが、来年度以降平成30年までは12名とか13名という人数がデータ上はございますので、このような数字になっております。

6. 協議

(1) 櫛引地域審議会の協議テーマの設定と今後の進め方について

— 資料に基づき今野総務企画課長説明 —

前田会長

それでは委員各位よりいろいろご意見頂戴したいと思いますが、なかなか雲をつかむような話で、どこをとっかかりにしたらよいかということもあるのですが、先ほど、私も冒頭のあいさつで申しあげましたけれども、合併して7年間経ってみて、皆さんの櫛引地域に対する所感を述べていただいたほうがいいかなあと思っておりますので、今回委員になられた方々からまず合併の後の流れについての所感について述べていただければと思いますが、秋山さん、なんでも結構です。いかがでしょうか。

秋山文雄委員

今、会長のほうから合併についてということで話ありましたけれども、できればこういう会議の前にこういう資料を事前に配布してもらえないかと思えます。皆さん前からやっていた人は知識があつてわかると思うのですけれども、私初めてでして、この場に来て初めて資料見せていただきまして、私も勉強不足ですけれども、できれば資料を事前配布して、ある程度中身を頭の中に入れておきたいと思うのですけれども。

合併についてですけれども、少子高齢化というものは如実に現実のものとなっていますし、先ほど今野慎太郎さんも言われた通り、私の住む学区は、櫛引東小学校です。今、統計では複式学級ならないようになってはいますけれども、この統計とつてからも黒川地区は相当動いています。どっちかというより良い方向ではなく悪い方向に動いているのが事実です。そういう面を踏まえて、どのようにして取り組んでいったらいいのか、黒川だけの問題でなく、櫛引の問題でもあり、これからしっかり勉強していきたいと思っておりますけれども、皆さんの意見も拝聴しながら頑張っていきたいと思っております。

前田会長

資料については、基本的にはこれまでも事前配布になっていますよね。

今野総務企画課長

今回については事前配布できませんでしたが、以降については極力事前配布に努めていきますのでよろしくお願いいたします。

上野重和委員

私も初めて参加させていただきましたけれども、私の紹介になりますが、私は櫛引の生まれでもありませんし、育ちでもありません。出身は鶴岡市の京田という地区でございます。私は25年間のサラリーマン生活を終えまして、今から10年前にUターンしてきまして櫛引に住んでおります。1年間期間ありましたけれども、48歳の時に専業農家として就農させていただきまして、現在57歳ということでただいま9年目を迎えておりますけれども、毎日楽しく仕事はやっているつもりです。それもこれもすべて私の隣の隣に座っております澤川さんから「お前も百姓やれよ。」ということでチャレンジをしまして、現在に至っているというようなところでございます。

私は今、専業農家で食べてはおりますけれども、地域の活性化という意味からすれば、私の倅も東京で働いておりますし、こちらに帰ってきてても仕事はないというのが現実ではないかなあと思います。私の周りでも息子さんとか娘さんとか帰ってきたいのだけれども、なかなか仕事がないということを日々耳にするわけですけども、そういった意味からすれば地域の活性化には、こちらの冊子にも書いてありますけれども、今年の市政の課題ということで地域経済の活性化と雇用の確保ということが、少子高齢化にも対応できることだと思いますし、一番はこの地域が経済的に潤うということが一番大切なあとこの9年間ずっと考えてきたことでございます。私、個人的にはできませんけれども、産直あぐりの会社としては、雇用として、正社員なりパート社員なりということで雇用はしておりますので、なんとか世の中のお役にたてているのかなあとと思いますが、まだまだ発展途上ということで、こういうものを頑張っていきたいなあというように思います。どうぞよろしくお願いいたします。

佐久間忠勝委員

所感ということで、一つは地域審議会の所管する業務ということで、合併前に新市建設計画を策定して旧町村で出しているわけですが、地域審議会ではこうした計画の進捗状況をこまめにチェックする機能、これが一番優先的な業務として記憶していますが、その辺この地域審議会では当初はあったと思います。合併後数年たって見直しも結構あると思いますが、その辺どうなったかと住民の人でも思っている人いると思うので、櫛引で合併前に何回も会合やって要望をまとめて作り上げた櫛引地域の建設計画について、今どうなっているのかということを含めて地域審議会では1年に1回ぐらい知る必要があるのではないかというふうに思います。

それから私は、体協の立場でしておりますので、体協の状況を若干報告したいと思いま

すが、体協も最近ぐっと変わりまして、まず名称が変わりました。今年の3月にNPO 鶴岡市体育協会、今までは任意団体でしたが、法人格を持つNPO 鶴岡市体育協会、そして櫛引地域体育協会と、合併して一本化となっておりますので、名称としてはこういうようになりました。なぜNPOに、ということになるのですが、一昨年体育施設の管理運営の要請があったわけでございます。それを受けて23年度いろいろ検討した結果、去年の10月の総会で法人化移行の決定がなされておりますし、その後事務手続きが終わりまして、今年の3月には、山形法務局から設立が認可されました。体育施設の管理運営と従来の活動を含めて活動していくわけでございますが、特に24年度は法人化に伴う施設管理の実践・研究を行うということで、近い将来、スポーツセンターや運動公園が、こうした組織によって管理運営していくのかなということで説明も受けております。

櫛引のスポーツ施設の利用も、スポーツセンターが年間5万人ぐらいで、運動公園が3万5千人弱のようです。観光施設ですが、スキー場が約3万人利用している。体育施設によって10万人を超える賑わいがあるということですので、こういった施設の維持管理、今後市からNPOに移行されるような可能性があるようでございますけれども、特に櫛引地域については、利用状況を見ますと、櫛引地域民に限らず地域外の県内全般から、あるいは全国大会の開催などもスポーツセンターで開催されております。そういった意味で交流が活発になっている地域であると思えますし、このことをうまく生かしていくには、施設の維持管理をうまくやっていく必要があると思えます。

今年の3月にバレースポ少の全国交流大会が鶴岡市を会場にしてありまして、主会場が小真木、そして男子の会場として櫛引のスポーツセンターがなっており、私もスポーツ少年団の団長でありますので3日間そこで対応しました。もちろん全国大会ですので全国のスポーツ少年団、文部省のお偉いさんも来ました。そんな中であの日は大雨が降っていたのですが、ステージの方で急に雨漏りが発生し、慌てて対応しまして、次の日は表彰式・閉会式ということで、雨が降ったら大変だなあと思っていたのですが、次の日は降らなかったのでも何とかなりました。めったにはならないそうですが、大雨が降ると雨漏りすると。雨漏りの場合は、早めに修繕しないと建物の寿命が持たない。今いろんな施設で長寿命化がすすめられておりまして、農業施設についても、今あるものをいかに長く使うかという方向に切り替わっておりますので、ぜひ櫛引にあるスポーツセンター、総合運動公園、スキー場も含めて、そういった修繕をこまめにやって、いかに長く使っていくと、こういう方針で市のほうからも考えていただきたいと思えます。これから新しい施設を作るということは到底考えられないわけですので、年間10万人を超える利用者もあるので、平均寿命は長くなっていますけれども、健康寿命といいますか日常生活をいかに健康で過ごせるか、これが今非常に大きな課題となっております。みんなこれを基本的課題として、健康を目標にして、スポーツやったり、ウォーキングやったり、ランニングしたり、一生懸命自分の健康のために取り組んでいますので、基本の体育施設を大事にして、あとはこう

いった運動を展開していきたいしそうした環境を作り上げていきたいものだなあと思います。あと、いろいろ心配なのが、少子化が非常に進んでいるということでございます。以上です。

今野慎太郎委員

合併して7年目になりますけれども、合併当初の新鶴岡市の人口が、約14万4千人、今年3月末の人口が13万6千人ということで8千人ほど減少しております。現在の櫛引地域の人口が約7,800人なので、旧櫛引町がそっくりなくなったというくらい少子高齢化が進んでいるのが実態だと思います。その中でも介護の認定者が約8,200人いるそうです。そのうち各施設に入所されている方が1,200人ちょっと位で、残りの約7,000人、介護認定者の約85%が在宅で介護されているという実態を聞きますと、私も70代半ばになっていきますので何年生きられるかわかりませんが、とにかくこの年になりますと一番気になるのが、健康のことではないのでしょうか。そのことは、家族にも迷惑かけられませんので、健康にはお互い留意しているわけですが、老人クラブは健康づくりであったり、相互扶助、仲間づくりというものが目標にあるわけですが、寝たきりでは楽しい人生は送れません。まず、これからの老人クラブの組織の在り方としては、何よりも健康づくりを第一の目標にしながら、組織活動に力を入れていきたいと思っておりますので、皆様方からは老人クラブ組織の支援をよろしくお願ひしたいと思っております。

幸いにも、櫛引の老人クラブも今年で設立50周年を迎えます。ということで、現在記念誌を編集しているところですが、なかなか合併以前の古い資料が少ないものですから、編集には大変苦勞をしております。まず昭和36年に設立され、50周年を迎えるということですので、今までの年表なども加えながら、櫛引の全戸に今年の12月の暮れころまでに記念誌を作りまして配布をして、老人クラブの実態をご理解いただけるように準備をしておりますので、その節も大いにご協力、ご支援いただければありがたいと思っております。以上です。

斎藤ゆう子委員

婦人会の斎藤です。私たち婦人会といたしましては、女性の立場で一家の主人の後ろ盾となって、母親の役目というか、それを一つの役割として家庭から地域社会に広げていって、生活者の視点で物事を見、問題点を拾い出していくという方向で活動していくのが、私たちの役目でないのかなあとということで、活動しております。

それでちょっと私一つ質問させていただきたいのですが、大震災直後ですが、確か福島からいらっしゃった人がいたはずですし、鶴岡市に避難されている方が今のくらいいらっしゃるのかということ。それから、そのような人たちが今どのような状態にあって、どんな支援を必要としているのか、そういう情報がございましたら、わかる範囲で結構ですので教えていただければありがたいと思っております。

それから、佐久間さんからもお話ありましたけれども、合併の時の建設計画がありました

たが、その中の計画の中に櫛引らしいものということで、グリーンツーリズムの推進とか黒川能を中心とした伝統芸能文化振興とか反映されていたわけですが、合併して7年を迎えますと、いろいろな活動が全市的に広がっておりまして、なかなか、おらがおらがという考えで進めないというか、進めても多少限度があるのかなあというふうに思われます。そういった中で、建設計画で櫛引らしい事業の中でまだ手がつかないと言いましょいうか、もう少しこうした部分を強化していきたいなという部分が、一体どういうところで残っているのか、私たちも家庭の中に入ってしまうとすごく狭い部分でしかものを見れなくなってしまうものですから、当時合併に関わっていた今野総務企画課長さんのほうからでも、もっとこうしたほうがいいのかということがありましたらお聞きしたいと思えます。

森委員

初めて参加させていただきました。よろしくお願ひします。私が合併して以来思っていることを報告したいと思っておりますけれども、中山間地域としての宝谷やたらのか代地区で思っていることの現実、課題を少しずつこの場でお話ししていきたいと思えますのでよろしくお願ひしたいと思えます。宝谷地区では、伝えていきたい文化などはいろいろありますけれども、なかなか地域でものをやろうとすると、若い人が地域になかなか入ってくれないというようなことがあります。なぜかと考えますと、やはり今スポーツ少年団やスポーツにかかわることが多いので忙しいという点。地域でものをなかなかできないということが現実にあるということで、私としても地域でなんとかして文化を守れないものかと思っておりますけれども、なかなかそれは難しい。それをどうすればいいかと思っております。いろいろご意見をよろしくお願ひしたいと思えます。

齋藤美恵委員

はじめまして齋藤です。合併後、生活していて感じることは、農協や役所に行ったとき知らない顔が増えたということがまず実感です。年ともにそういうところに行くのも少なくなりましたけれども、それが合併してから一番変わったことかなと感じています。

そして合併して大事なのが、次の若い世代が生活しやすいものであるかどうか、合併して良かったという将来になって欲しいなあと思えます。昔は良かったと私もよく思うのですが、年ともに最近身近にいいものがいっぱいあるんだということに気づきまして、民宿も始めておりますけれども、その時その時の年代で良さがわかるようになりましたので、合併後も本当に良かったなあと思えるようになってほしいと思えます。

清和委員

何を言ったらいいのかと考えていたのですが、個人としては人間ドックの料金がすごく高くなったなあと実感しました。合併してからは負担が多くなったということを感じ知らされました。

それから合併してから感じていることではないんですけど、近年自然災害がすごく

多く発生しているわけですが、防災対策は私としてはすごく進んできていると思うのですが、櫛引地域においては、年一回、東と西に分かれて防災訓練等はやっていますが、各地区で毎年はやっていないように思うのですが、その辺ちょっと遅れているのかなあと感じたことがありました。

前田会長

課長、自主防のことについてどうですか。それから先ほどの避難者のことについて、どうですか。

本間市民福祉課長

婦人会長さんからお尋ねがあった、市内にどれくらいの方が避難しているか、どのような支援を必要としているかについてですが、資料が手元にございませんで、正確ではないかもしれませんが、現在鶴岡市全体では500人弱の方が避難している状況かと思えます。震災発生当初は、羽黒とか櫛引とか、櫛引ですとほのかたらのきだいに二十数人避難しておりますし、親戚や家族を頼って避難した人が十数名おります。ほのかたらのきだいについては、市民福祉課と社協で対応させていただいておりますけれども、個人で身寄りを訪ねて避難された方につきましては、婦人会の役員の方々と私どものほうで慰問といたしますか、婦人会のほうでお見舞金をもちまして、訪ねています。

現在どんなことが必要かということですが、これは想像ですが、最初はそういう施設で一緒であったけれども、だんだん施設というよりはアパート、公共住宅などに入っていったときに、被災者同士の交流がなくなっているということで、被災者同士で話し合えるような場が欲しいということで、社福や福祉課のほうで交流事業を行っているようです。現在どのような希望をもっているかということについては、聞き取りをして婦人会で何かしたいということだと思いますけれども、必要であればうちのほうで調べさせていただいて、次の審議会でも若干お話しできればと思います。

今野総務企画課長

防災の前に、建設計画のことについては佐久間委員と斎藤委員のほうからありましたので、そのことについて若干お話しさせていただきたいと思っておりますけれども、建設計画の進捗状況につきましては、昨年の例からいきますと、11月の鶴岡市の総合計画実施計画の見直しの際に意見をお伺いしたわけですが、その時に進捗状況についてお話をさせていただいております。その状況を踏まえて24年3月時点ということでお話ししますと、ケーブルテレビの関係、高度情報通信基盤整備については既に完了しておりますし、総額7億1200万の事業費で既に完了しております。建設関係では、市道整備について、一つは上山添三千刈線についても完了しておりますし、松根羽黒線、あるいは宮の根臼井線、片荃谷地田線、それぞれ完了を見ているものもありますし、優先順位をつけて事業を進めさせてもらっているということでもあります。あと、建設環境については、グラウンドゴルフ場、これにつきましても完了している。教育関係については、南小学校の改築、屋外学

校環境ということで、これも完了しております。それから丸岡城跡史跡公園、これについては面的整備までは完了をみておりますが、計画の中にはガイダンス整備もありましたけれども、面的整備は完了しているということで、計画事業費については65%の進捗状況になっております。

それからソフト事業については、先ほど斎藤委員からご質問ありましたけれども、振興計画ということでフルーツの里整備、グリーンツーリズムの推進、歴史・文化の里整備、櫛引地域の振興の柱ということで合併後地域振興ビジョンとしてまとめたわけですが、これについては、地域活性化事業ということで予算を設け推進している状況でありまして、進捗状況につきましては、また総合計画実施計画の見直しの時に合わせてお知らせすることもあるかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

もう一つ、災害に対する対応についてですが、これについては、先日、自治組織の代表者会議がありまして、藤島地域からの意見交換で、それぞれの地域でどのような対応しているかというようなことがございました。櫛引地域では、先ほど清和委員さんからもありましたけれども、毎年2つの地区で秋季防災訓練を方面隊の協力をいただき、また分署からもご協力いただき、地域の自主防災組織と庁舎が一体となってやっております。これは毎年2か所ずつですので、21地区ですと10年1サイクルということになりますので、ほかの地区ではしていないことでしたので、いいことではないかなあと会議に参加して感じました。ただ、自治会、コミセン、町内会単位でやっているようなところもございました。また前田会長からはその際、丸岡地区では毎年やっていると紹介していただいたようでもありますけれども、21地区すべてに自主防災組織が組織されておりますけれども、すべての地域がそういった活動が十分であるかという、そうでない地区もあるかと思っておりますので、そのことについては、区長さん、自主防災組織の関係と、取り組みの強化について検討してまいりたいと思っておりますし、全体の自主防災組織連絡協議会を立ち上げるというような話もございましたので、そういった中ではそれぞれの団体の情報交換などを通して、活動の活性化に向けた取り組みも望めるのではないかと考えております。

前田会長

自主防については組織率100%なんですけれども、実際それが機能しているかという課題もありますので、今、総務企画課長からもありましたように、鶴岡市でも大変力を入れておりまして、今度、今月の10日ですか、全体の連絡協議会を立ち上げるという運びになっているようであります。

これからの進め方ですが、もう一方今野委員さんからお話しいただいて、一応事務局としての今年のテーマの取り扱いについて、こんなことを考えているというような準備もあるようですので提起をさせていただきます、そのあとに今度は渡会さんから順次話をいただきたいと思います。

今野亨委員

私も日頃、朝から晩まで仕事に詰めているような状況でありまして、合併以降、ゆっくり物を考えるような時間もあまりないわけですが、今年になって西沼という地区に3週間ほど滞在する期間がありました。西沼とは今まで聞いたこともなかったのですが、大山のずっと北のほう、イオン三川のほうまで行くところでありまして、こんなところも旧鶴岡市なんだなあと、改めて旧町村を含めてなんですけども、鶴岡市のことはなにもわからなかったんだなあと感じてきたところでした。

旧櫛引町だったら、だいたい何がどこにあるのはわかりますけれども、現在の鶴岡市のことがわかっていないと感じております。旧櫛引を見ることも大事だと思うのですが、現在の鶴岡市全体をわかっていかないと、自分の住んでいるところ旧櫛引の地域がなかなか見えてこないのではないかと思います。審議委員の方でお話したり、質問もいいと思うのですが、もっと鶴岡地域全体のことを勉強しながらわかっていくことが必要なのではないかと日頃感じていることでもあります。

— 事務局提案について資料に基づき今野総務企画課長説明 —

前田会長

事務局から提案をさせていただきましたけれども、今日は委員全員からご発言をいただきますので、最終的には事務局提案を含め、いろんな議論をしていきたいわけですから、それを色々検討のうえで、次回にテーマを提案させていただきたいと思います。まずは皆さん全員からご意見いただきたいと思いますので、渡会さん、よろしくお願いします。

渡会委員

おかげさまで、先日の第2回くしびき夏祭りには、約千名の方からご来場いただき盛況に開催でき本当にありがとうございました。皆さんのおかげと本当に感謝申し上げたいと思います。やっぱり私は、櫛引地域は農業の地域だと思います。モデル的に中山間地域をどうするか、ということもあるとは思いますが。もうひとつは、櫛引は黒川能や加藤清正公墓碑、天狗舞獅子舞など色々な伝統芸能や資源があるわけですけども、こういったものを地域で守っていく方法を見いださなければならないと思うんですよ。ですから、皆さんから色々知恵を出していただけないものかなと思っております。

澤川委員

協議テーマの案なのですが、案1と2とあるわけですけども、関連性あるわけですが、私としては、どちらとも言えませんけれども。櫛引独自の21の自治組織、私は大変いいと思うんです。鶴岡や他の地域のコミュニティセンターを中心とした活動があるわけですけども、櫛引独自の21の自治組織を大事にしてほしいなと思います。

この地域は、農業を中心とした産業が大事だと思いますし、今まで、農業は「きつい」、「汚い」、「危険」の3Kといわれた時期もあったわけですが、それが今は、後継者不足、

高齢化、荒廃農用地の3K だともいわれております。しかし今後は、観光、感動、希望の3K です。農業は、そういった産業にとらえていかなければならない。農業は、いろんな可能性を持っているということを信じています。私は観光協会という立場で参加しておりますので、松浦前会長を前にして大変僭越なんですけれども、黒川能、清正公忠廣公のほかに埋もれている観光資源がいっぱいあるのかなと思っております。たとえば農業に関したことなんですけれども、観光農業を中心とした集客方法もまだまだいっぱい可能性あると思います。現に、今年はサクランボに関してですが、農園紹介が去年よりはるかに上回ったという実績もございますし、地域の活性化というのは、農業と観光をなくてはならないと思っております。審議会の協議テーマでもこのへんを含んで考えていただければと思います。

佐久間泰子委員

社会福祉協議会のほうから出席させていただいておりますけれども、会議に出ると櫛引は21の単位になっていてすごくいいのと言われます。他のところだと、ちょっと失礼なんですけど、4軒ぐらいでも一つの集落になっているので、いろいろ考え方が違うと地域のコミュニティとしてまとまらない。櫛引は21の単位ですごくいいのと言われておりますので、私も21の自治組織はこのまま守っていただきたいと思います。

それから先ほど避難者のことで斎藤さんからありましたけれども、社会福祉協議会の中に避難してきた方のお世話をするところがあります。志賀恭子こさんという方が担当ですので、何かありましたら志賀恭子さんにお話ししていただけたらいいと思います。

私もこの間、櫛引福祉センターの被災地に行くツアーに参加しましたがけれども、個人情報が入りすぎたものから、どこに避難したのかわからないという話が出ました。社会福祉協議会のほうでもわからないし、鶴岡市のほうでも名簿なんかを作るのもすごく大変だったということも聞いています。審議会での話としては違うかもしれませんが、災害時における個人情報の取り扱いについて、県のほうになるんでしょうか国のほうになるんでしょうか、災害の時に限って緩めていただけないかなあと思っております。どこの社会福祉協議会に行っても、どこに行ったか役所のほうでも知らせてくれないし、民生委員の方が一生懸命やっても、限度があると思えました。私、民生委員やらせていただいておりますけれども、避難者の名簿は全然回ってこなかったです。ただ今回避難してきた方は、その県によって悩みが違っているようです。福島県の方の悩みと、宮城県、岩手県の方の悩みが全然違うものから、個人の考えもちょっとわからない部分がありまして、その辺も気を付けなければいけないので、個人情報ではないですけども、どこから来たかぐらいは出してもらってもいいかなあと、それだけは思っています。

住民主導のコミュニティが、わたしがやりたいテーマでもあります。

前田会長

昨日、藤島で自治組織の会議あったのですが、9世帯から230世帯まで61集落だそ

うです。櫛引は黒川山添合併以来、43か44あった集落を21にまで集約してきました。この点に関しては、まったくモデル的な取り組みでありました。

みなさんからご意見いただきましてありがとうございます。

松浦委員

私は、今回、加藤清正公忠廣公遺蹟顕彰会会長という立場で出席しておりますけれども、この丸岡地区の結束というのは、大変なものです。かつて、我々が若いときは各地区ごとにこういった結束があったものです。丸岡の結束というのは、このへんでも大きな模範となるものだと私は思っております。

何か仕事をするとき、もっとしっかりしなければいけないと自然と教えられてきました。常に観光にも結び付くわけですけれども、経済的に豊かにならなければ、観光は長続きしません。みんな、観光、観光といいますけれども、行政から指導を受けたり、補助金をもらって成功したって、一回だけの花火でありまして、一人一人が自分の考え方をその組織の中で大きく発言したり、経験を述べたり、そういうことを自由闊達にしないと観光は成り立たないというように私は思います。

加藤清正公忠廣公については、中心は熊本ですが、飛騨高山、村上、関係者が集まるたびに、私も勉強させてもらってるような状況であります。この加藤清正公忠廣公に結びつけた観光が、この地域の観光に大きな影響を与える時期が来ると私は思っておりますので、このことも、地域のコミュニティの活性化の一つとして、皆さんからご協力いただきながら、一緒になって進めていきたいというのが今年の私の一つの大きな心がけでございます。

伊藤委員

櫛引方面隊長の伊藤です。皆さんには日頃から、消防団の事業にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

消防団業務について、いろいろ話をしていきたいとは思いますが、今回、地域の活性化に向けた協議のテーマということでありました。

鶴岡にはコミュニティセンターがありますけれども、まとまっているのかなと疑問に思いました。

櫛引は、コミュニティについては、昔から自治公民館事業をやっていて、地域を大事にしているなど見えています。

ただ、合併してから地域に対して細かい点で手が入っていないというか、住民からの要望や、いろいろ無理なことをやってくださいと言っても、いままではぎりぎりの線でやってくれたというのがありました。今になり、その部分が若干薄れてきたのかなというように思います。

地域の元気力というのは、若者に元気があるのが一番地域の元気力につながるのではないかなと思っております。話とびとびなって申し訳ないですけれども、櫛引の消防団員、かなり若いです。消防団の事業やっていますが、非常に若者が頑張っています。といっても、

消防でしか、がんばっていないとの声も聞かれます。消防団に入っていない若者もいます。なんとか若者が地域に根付き、元気の出る地域にしていければということで、私も消防団の連中と酒を酌み交わしているときによく言うんですけれども、自分の家を守ればおのずと自分の地域を守ることになるんだよと、元気のない団員には話をしております。

やはり地域があつてのコミュニティだと思いますので、若者を元気づけること、当然、先ほどから話ありましたけれども、農業に関してもそうです、婚活の部分に関してもそうです、今の若者にもう少し元気を与えることを考えられればなど、そういうふうに思っていますので、このテーマ地域主導のコミュニティ、広い意味で話題になって盛り上がりればなあと思っておりますので、今後とも微力ですけれども協力させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

前田会長

地域に青年団組織、青年組織がなくなって久しくなるわけですが、私は地域で消防団こそ、イコール青年組織だと思っております。大変期待をしております。日々見ますと、大変ご苦労もあり、操法の訓練だとか、日々の点検だとか、いろいろとご苦労されてますけれども、私は、消防団イコール青年組織だということで力に思っております。今後とも頑張ってくださいと思います。

成田勇委員

私は松根塾という立場で参加しておりますので若干触れさせていただきますけれども、自治会や自治公民館活動がなければ松根塾は生まれてこなかったということがございます。それは一言でいうと、その活動の中であるいは自治公民館活動の中で、地域の歴史や文化というものを長い目でとらえながら次代を担う子供たちにその良さを伝えることが、なかなか難しいということがあったわけです。それを受けて、長く取り組める組織ということで、松根塾を作ったということがございますので、自治会、自治公民館が土台になかったら松根塾は生まれなかったということで、この櫛引地域の21集落の自治活動、これは非常に重要な視点があると思っております。気持ちも、コミュニティの新たな推進組織に向かわせようという狙いはないんだと思うのだけれども、この文章を見ると、いままでのものをきちんと総括して、これはこれでいんだと辿りつけばいいんだと思いますが、狙いからするとどうも意見があるなというふうに思っておりました。

とりですので、私が気になっていることを一つ課題として投げかけたいと思うのですが、私も区長会に入っておりますので、前田会長が、最近、これは個人的な攻撃をしているのでありませんので、最近しょっちゅう言うのはですね、先ほども言うように櫛引地域の求心力がなくなった、あるいは元気がない、合併前と比べると元気がない、これは最も解決しなければならない重要な課題だろうと思っております。新しい鶴岡市になった、だから、櫛引地域の求心力が低くなっていいのだという考えもあろうかと思っております。しかし、そうではなくて別の意味でこの櫛引地域をもっと大切にしなきゃならないという視点が

あれば、それがなぜ元気がなくなったのかをきちっと分析をして、そして新しい鶴岡市建設計画に問題があるのか、あるいは執行上に問題があるのか、あるいは櫛引庁舎の進め方に問題があるのか、このへんはこの際ですのきちっと整理すべきだろうというように思います。

私も、仕事を退職し、そして合併してから地域とかかわって入ってきたものですから、合併前の元気と合併したあとの元気とどんな風に違うのかが正直わからないのです。わからないだけけれども、重鎮からそういう言葉を言われるとですね、ほんとにそうなんだ、じゃあどこに原因があるのかということも明確にしないで次のステップに行くなんてことはできなんじゃないか。昨年、荒沢区長も同じことをおっしゃっていました。合併前より元気がなくなったとは一体どういうことなのかということの一つ議論をしないとこのテーマになかなか入るのは大変じゃないか。地域活性化、地域に元気がなくなった原因をきちっと探らなければ、この地域のことに入っていくことはできないんじゃないかというように感想として持ちました。

前田会長

とりの役を果たしてくれてありがとうございます。私が話した「かつての輝きがなくなった」という言葉を成田さんから取り上げていただきました。ただ感じとして申し上げているのでなくて、裏打ちとして、先般、黄金、斎、上郷とか、いわゆる昭和の大合併の時に先行して鶴岡市になった地域の今の状況の資料を先般市の職員からいただきました。十分な時間もありませんでしたが、いろいろなことを点検しております。まとめられれば皆さんにも相談して資料として差し上げたい。結局、元気がなくなったとすれば原因があるから元気がなくなったというわけで、原因が一体何なのか、それが今ご指摘いただいたようになんとか元気がないなあというようなことでなくて、こういった点で違っているのではないかとということも点検するために資料を取り寄せましたので、皆さんに一つだけ言えることは、やっぱり汗をかいてやることをやらないと残らないということです。今オリンピック行われておりますが、それぞれメダリストの人生を聞きますと非常にそれぞれにドラマがあります。私もああいうもの見ながら、人生も地域もそういうことなんだな、汗をかいて何かをやってこないと本当に輝きはしない、金にも銅にも銀にもならないと私は思っています。

今回、教育委員会の社会教育が出した事業記録ですけれども、黄金、斎、上郷とか見ながらですけれども、合併後何かをちょっとおいてきてしまったのかなあというような感じを今持っておりますので、それが何かを資料提供させていただきたいと思っています。

今日、30分延長しそれからさらに7分ほど延長しているのですが、本日、協議テーマ、これというように時間的に設定できませんでした。これは非常に難しいことでありますので無理して決めることでもありませんので、新しく委員になられた方大変急で申し訳ありませんでしたけれどもご意見をいただきました。また継続している委員の皆さんからもす

べて意見を伺いました。なお、本日欠席している4名の委員もおりますけれども、今日皆さんからお聞きしたことを同じ視点でご意見を寄せていただきまして、それと事務局からこういうものもあるのかなというようなテーマを出していただきましたが、これは全部合わせて、皆さんからいただいた意見も合わせて、次回10月の上旬に再度開かせていただきたいと思いますとおるんですが、いかがでしょうか。第3回は10月上旬ということ開かせていただいてよろしいでしょうか。

松浦委員

それはいいけれども、なるべく早くお知らせをしてもらいたい。

前田会長

10月の上旬の開催はよろしいでしょうか。

松浦委員

それはいい。9月の下旬に10月の上旬するということじゃなくて。早く知らせてほしい。

前田会長

できるだけ早く決めて、できるだけ早く知らせたい。テーマについては、皆さんから今日いろいろご意見をいただいたわけですが、会長、副会長、事務局に、皆さんからの意見や事務局提案を総合すると今年度こんなことが考えられるのでないかということをお次回への預かりで提案させていただいてよろしいでしょうか。

その状況もできるだけ早くお知らせするよう努力したいと思います。

テーマは10月にお集まりいただいたときに決めたいと思います。事前に打ち合わせもします。

そういうことで会長預かりにさせていただいてよろしいでしょうか。それではそういうことで事務局と相談して、会長、副会長、事務局で今日の結果を踏まえて検討します。

そして、課長、4人の欠席者からも合併後の7年間を振り返ってどう感じているかを聞いてください。それも合わせてやりたいと思います。では、そういうことにさせていただきたいと思います。

(2) その他

今野総務企画課長

次回の審議会でございますが、初めてお会いする方もいらっしゃるわけですので、会費制にはなりますけれども、懇親の機会を設けさせていただくのはどうなのかなと提案させていただきたいと思います。

次回テーマを決定して審議を進めていただくわけですが、それに関連した研修の機会なども必要であれば、事務局的に提案させていただければと考えておりますので、以上2点についてよろしくお願ひします。

前田会長

今回の機会に会費制の懇親の場を設けたいという提案ですが、いかがでしょうか。大分皆さんうなずいておられますので、そのように進めさせていただきたいと思います。課長、日当の範囲内で一つ、それも少し残る範囲内でよろしくをお願いします。

7 その他

佐久間忠勝委員

団体名ですけれども、先ほど NPO 法人の話をしました。この次は、正式に NPO 法人鶴岡市体育協会櫛引体育協会となったほうがいいと思います。ぜひ正式名を入れてください。

今野総務企画課長

確認をさせていただいて、次回からそのようにさせていただきたいと思います。それから審議会開催のご案内については、極力早めにお出しするようにいたします。

8 閉会

今野総務企画課長

それでは、これをもちまして第2回櫛引地域審議会を閉会させていただきます。長時間ご苦勞様でございました。

15:47